



小野建設株式会社 代表取締役社長 小野 徹 氏

プロフィール

昭和23年三島市生まれ。昭和43年慶応義塾大学経済学部卒業。昭和48年小野建設入社。平成3年より現職。(社)全国中小建設業協会理事・副会長兼建設業振興対策委員長、静岡県中小建設業協会会長。21世紀塾代表世話人をはじめ、三島ゆうすい会顧問、NPO グランド・ワーク三島理事など市民活動にも積極的に関わっている。

熱意とアイデアで 地域の文化をつくる

静岡県東部地域を代表する総合建設業の小野建設は、大正9年(1920)の創業以来、地域の土木工事に携わり地域興の一翼を担っている。

地域のリーダーとして長年にわたり地域活性に取り組みとともに、歴史や文化を活かしたまちづくりへの提言を行っている三代目の社長である小野徹氏に話を伺った。

—— 会社概要を教えてください。

大正9年(1920)に創業した総合建設業の会社です。創業以来終始「誠実」を是とし、80年以上にわたり建設業を通じて社会に貢献することを目標にしています。

企業人としての

まちづくりへの提言

私は文化人というよりは、企業人として地域振興の観点で活動をしています。

その中で特に文化との関わりが深いものに、三島青年会議所の理事長だったときに行った「オープンロード箱根八里」という箱根旧街道の整備事業があります。これは、自然と歴史に恵まれた箱根旧街道をウォークラリー風楽しんでもらおうと、昭和60年(1985)に三島青年会議所と小田原青年会議所が協力して行ったものです。

「雨の三島を和傘でもてなそう」という提言を2005年にされていますね。

「オープンロード箱根八里」の命名は詩人の大岡信氏にお願いし、大岡氏をはじめ、井上靖や東山魁夷など8人の当時著名な文化人の記念碑を箱根の旧街道に作りました。車で行けますからぜひ回ってみてください。

また、1992年より、21世紀塾という勉強会を主催していて、伊豆地域の振興に関する提言書を作っています。年に10回、もう250回以上になります。メンバーは青年会議所時代の仲間をはじめ、勉強したい人は誰でも参加しています。提言の中には、伊豆ナンバーやサイクリングロードなど、実現したものもあります。

—— 「雨の三島を和傘でもてなそう」という提言を2005年にされていますね。

三島はかつて和傘の製造が盛んな街でした。確井さんという市議会議員のお父さんが三島最後の傘職人(確井善太郎さん・1995年逝去)だったのです。

商店街のアーケードをとってしまっただけで、和傘が雨の三島の武器になると考えたのです。三島を訪れても、雨で何も見ることがない、富士山が見えないというときに、しとしとした楽寿園を歩くとか、和傘を持って歩くのが三島の街にふさわしいということがこの提言書に書いてあります。



「オープンロード箱根八里」の冊子と、21世紀塾の提言集など

に取り組んで欲しいと思います。

伊豆縦貫道といういい道路を造ったのだから、車を止められる広場や、写真を撮りたくなるような背景の構造物があるといいと考えています。

小野建設の本社屋に源兵衛川と柿田川の大判写真を掲示しているのは、そんな思いからです。

—— 個人として興味を持っている文化のジャンルはありますか？

昔から歴史や文化が特別に好きだったというよりは、地域振興に携わっていく中で、必要に応じて学ぶようになっていきました。まちを活性化するための材料として、歴史や文化、自然をどう生かしています。

豊かな発想で

「水の都」の資源を活かす

その意味では、三島には資源はたくさん

あります。いくらでも材料はあるのだから、どう活かすか。活かそうとする熱意が大切なのです。

伊豆長岡の『芸者応援団』に入っています。日大国際関係学部の佐藤前学部長に誘われて入りました。芸者もひとつの文化だと思っています。富士山が見えるだけのところではだめ、芸者のような要素があつて初めて、個性ある地域といえると考えています。

三島は水の都で、水と雨はつながっています。そして、隣の熱海は日本一の湯の国です。水とお湯で地域的な連携にも使えないのではないのでしょうか。熱海とは風土が違いますが、「水」ではつながっています。

和傘であれば、葦山の竹とも関わりがあります。発想が豊かであれば、材料は近くにいろいろ埋まっているんですよ。

地域の資源を活かす、という例ですが、私が葦山高校のPTA会長だった平成9年(1997)に、佐野美術館と入館協約を結びました。その後他の高校も続き、年会費を払えば生徒や先生が自由にいつでも展覧会を見られるようになりました。その時は、佐野美術館が「映画見に行こうよ」みたいな感じでデートスポットになるといいと思ったのです。

—— 三島の好きなところ、お気に入り

の場所はありますか？

三島の夜の水資源の活用は、三島人も責任の一つがあると思っています。せっかく(上流の工場に)水を出せ、あまり汲み上げてはいけない」と言って、楽寿園の小浜池や源兵衛川の水量を復活させたのだから、もっと積極的に水を活かして欲しいですね。

提言が実現したものもありますが、まだ不満もあります。向上心がありすぎることも原因ですが、不満から生まれるパワーもあります。満足してしまうと、やる気がストップしてしまいますからね。



小野建設株式会社
静岡県三島市谷田60番地の3
<http://www.ono-ken.co.jp>

「三島企業の考える三島カルチャー」は、「三島の文化応援プロジェクト」が、三島周辺に拠点を置く企業の方々に、三島の文化についてインタビューするシリーズ企画です。

次回「三島信用金庫 理事長 稲田精治氏」